

佐賀大学美術館
事業報告及び
自己点検・評価報告書
平成31・令和元年度

令和2年12月

佐賀大学
美術館

目 次

I 佐賀大学美術館の現況及び特徴

1 概 要	p. 1
2 沿 革	p. 2
3 施設概要	p. 3
4 平成31・令和2年度の活動	
(1) 主な活動	p. 4
(2) 主催事業展示記録	p. 5
(3) 企画申請事業展示記録	p. 14
(4) 実習	p. 32
(5) 刊 行 物	p. 36
(6) 広 報	p. 37
(7) 見学団体・入館者数	p. 38
(8) 平成31・令和2年度新収蔵作品	p. 40
(9) 寄附状況	p. 41

II 自己点検・評価 p. 42

- 1 平成31・令和元年度の主な活動に関する自己点検・評価
- 2 今後の課題等

I 佐賀大学美術館の現況及び特徴

1 概 要

平成 25 年 10 月、旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合 10 周年記念事業の一つとして開館。美術館と併せて整備された正門エリアは「地域に開かれた大学」という佐賀大学の理念を象徴し、門扉のない低い正門、そして、水平線が強調され、ガラス張りのファサード（正面）をもつ美術館から成る。そして、佐賀大学美術館は、より多くの人に総合大学である佐賀大学の魅力を知っていただくための情報発信の場として建設された。

平成 15 年の国立大学法人法の制定以来、国立大学はそれまで以上にそれぞれの特徴を打ち出し、存在意義を明確にしなければならなくなった。佐賀大学の特色や強みは何かと言われたとき、60 年以上の歴史を誇り、多くの優れた美術・工芸分野の教員、作家、デザイナーなどを輩出してきた美術・工芸教室の実績は地域に確たる歴史を刻んでいる。このような歴史と実績を背景とし、新生佐賀大学の 10 周年を記念する事業の一つとして、佐賀大学美術館建設はスタートした。総合大学であるにもかかわらず、博物館や資料館ではなく、美術館が建てられた理由もそこにある。

一方、佐賀大学は「COC（センター・オブ・コミュニティ）」を大学の理念として掲げている。すなわち、佐賀大学の大学としての大きな存在意義とは、地域貢献にある。佐賀大学は、佐賀大学美術館を通して地域の文化芸術の促進に貢献するとともに、佐賀大学美術館が地域の人々のコミュニケーションの場となる使命を有するのは、そのような理由があるからである。

佐賀大学美術館は、佐賀大学が所有する資料の公開や、特別教科（美術・工芸）教員養成課程以来の美術作品を収集・保管・展示するとともに、美術の新しい活動や表現を地域の人々とともに作り上げていく。また、佐賀大学美術館は、総合大学が生み出すさまざまな研究成果を周知・公開していく。

博物館法に定められた美術館の機能である 1) 調査・研究 2) 資料の収集・保存・公開 3) 教育普及の柱を堅持しつつ、なおかつ佐賀大学美術館は、これらの機能に加えて大学の研究教育機関としての役割、すなわち、全学的な教育研究成果の発表、美術教育研究成果のアーカイブ化などを果たしていく。このような「社会教育の場」であるとともに、「大学の教育研究機関」でもあるという位置付けこそが佐賀大学美術館の特徴であり、学生の教育のために積極的にその場を提供し、また、美術館自体も博物館活動を通じて学生への教育を担う。

(参考)

佐賀大学美術館設置までの主な経緯（役員会での決定等）

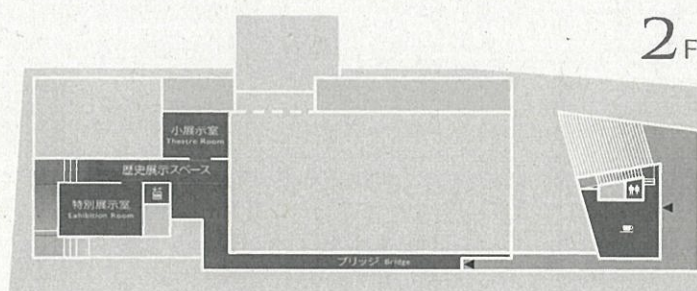
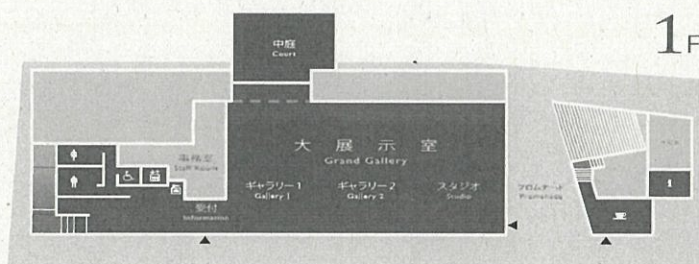
- | | |
|------------------|--|
| 平成 23 年 6 月 8 日 | 美術館設置諮問委員会からの答申を報告し、美術館・正門整備委員会の設置を審議・了承 |
| 平成 24 年 1 月 25 日 | 平成 23 年度補正予算（第 2 次）案で基本設計費の審議・了承 |
| 平成 24 年 2 月 22 日 | 基本設計のイメージ説明、募金趣意書等を審議・了承 |
| 平成 24 年 6 月 20 日 | 平成 24 年度補正予算（第 1 次）案で実施設計費、建設費の審議・了承 |
| 平成 25 年 6 月 26 日 | 佐賀大学美術館規則等の制定 |

2 沿 革

- 平成23年 1月 4日 学長年頭挨拶で美術館設置計画を発表
- 平成23年 6月 8日 役員会にて美術館設置諮問委員会からの答申書を報告
美術館の設置を審議・了承
- 平成23年12月20日 美術館基本設計建設コンサルタント選定委員会
- 平成24年 2月22日 役員会にて基本設計のイメージを説明。募金趣意書を了承
- 平成24年 5月14日 基本設計納入
- 平成24年12月29日 美術館実施設計終了
- 平成25年 2月14日 新営工事起工式
- 平成25年 6月26日 美術館規則、美術館運営委員会規程制定
- 平成25年 8月30日 美術館建設工事竣工
- 平成25年 9月28日 佐賀大学統合10周年記念式典・佐賀大学美術館開館記念式典
- 平成25年10月 2日 一般公開開始
- 平成26年10月24日 入館者5万人達成
- 平成27年 1月22日 第18回佐賀市景観賞表彰式
- 平成28年 2月19日 入館者10万人達成
- 平成30年 12月9日 入館者20万人達成

3 施設概要

人 称	佐賀大学美術館（通称 SUAM）				
所 在 地	佐賀市本庄町1番地				
構 造	鉄骨造・地上2階建				
延床面積	1, 5 0 2㎡				
展示面積	4 6 2㎡				
	ギャラリー1	1 0 6㎡	ギャラリー2	1 0 6㎡	
	スタジオ	1 1 1㎡	特別展示室	4 8㎡	
	小展示室	3 4㎡	歴史展示スペース	5 7㎡	
そ の 他	プロムナード 中庭 ブリッジ				
設 備	トイレ 多目的トイレ ロッカー				
併 設	なし				
開館時間	1 0 時 0 0 分～1 7 時 0 0 分				
休 館 日	毎週月曜日（祝日の場合は翌日，年末年始，夏季休業期間）				



4 平成31・令和元年度の活動

(1) 主な活動

平成31年	4月2日「常設展示 第1期」(～9.16)
令和元年	5月1日 特別展「佐賀の近代日本画展」(～6.23)
	8月23日 特別展「つちからいづる」(～9.23)
	10月1日「常設展示 第2期」(～3.22)

(2) 主催事業展示記録

展覧会名	常設展示 第1期
展覧会概要	2013年の開館以来、佐賀大学美術館は、佐賀大学の美術教員はじめ佐賀にゆかりのある作家達の芸術作品を収集し、現在は90点以上の作品を収蔵している。常設展では、当館のコレクションを恒常的に学生はじめ地域の方々に一般公開し、佐賀や佐賀大学における美術の様相を紹介する。 第1期では、平成30年度に新たに当館に収蔵された寄贈作品を公開します。コンピューターグラフィックをいち早く研究の対象とした佐口七郎の作品や本学の芸術地域デザイン学部の源流にあたる特別教科教員養成課程（美術・工芸）設置に大きく貢献した石本秀雄の油彩画を中心とした展覧会を開催した。
会期	2019年4月2日(火)～9月16日(月・祝)
開館日数	144日間
会場	特別展示室
主催	佐賀大学美術館
展示構成	西洋画5点、デザイン2点、資料2点 合計9点
入館者数	2,318人
広報物	外看板、HP、FB
配布資料	目録
展示写真	   

佐賀大学美術館常設展第1期

4.2(火) ▶ 9.16(月・祝)



作品名	作者	媒材・材質	制作年	サイズ(cm)	実況者
おきぬの像	河田二郎	油彩・カンヴァス	人正 2(1913) 年	42.4×34.4	当館蔵
母の肖像	佐口七郎	CG・紙・ラムダ印刷	昭和 61(1986) 年	40.8×48.0	山口正広氏
構成2	佐口七郎	デジタル・プリント・紙	昭和 60(1985) 年	50.0×55.0	佐口正広氏
白鹿像	石本秀雄	油彩・カンヴァス	昭和 46(1971) 年	45.4×37.8	当館蔵
真珠の母の肖像	石本秀雄	油彩・カンヴァス	不詳	45.0×55.0	当館蔵
阿弥如来	石本秀雄	油彩・カンヴァス	昭和 20(1945) 年	162.8×130.6	当館蔵
風景	石本秀雄	油彩・カンヴァス	昭和 14(1939) 年	73.2×91	当館蔵
資料2	資料2	資料2	資料2	資料2	資料2
資料1 写真資料(佐賀大学)	資料1	資料1	資料1	資料1	資料1
資料3 (書籍)	資料3	資料3	資料3	資料3	資料3

佐賀大学美術館
SUGAMU

出品リスト

作家名	作品名	制作年	素材	所蔵
岡田 三郎助	若き娘の顔	1913	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
佐口 七朗	球体による構成 -589	1986	CG、銀塩ラムダ出力	佐賀大学美術館
佐口 七朗	構成2	1985	シルクスクリーン、ケント紙	佐賀大学美術館
石本 秀雄	自画像	1929	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
石本 秀雄	新緑の中の中央公園	不明	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
石本 秀雄	画室にて	1951	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
筒井 茂雄	風景	1939	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
石本 秀雄	「特美」関連資料(授業ノート)			佐賀大学美術館
佐口 七朗	資料(書籍)			佐賀大学美術館

展覧会名	佐賀の近代日本画	
展覧会概要	佐賀の近代の日本画を紹介する展覧会。明治の近代化によって成立することとなる「日本画」という絵画ジャンルで、佐賀県には池田幸太郎や川浪養治、立石春美、岩永京吉など優れた日本画家として活躍した人物がいた。その多くが東京美術学校で学び、「中央」の芸術の息吹を佐賀に送り込みながらも、郷土佐賀でしか作り得ない作品を生んできた。 本展では佐賀の日本画の源流としての江戸末期から明治の近代化、現在までの佐賀における日本画の様相を辿り、佐賀における美術史、表象文化史を紹介した。	
会期	2019年5月1日(水)～6月23日(日)	チラシ
開館日数	47日間	
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、特別展示室	
主催	佐賀大学美術館	
協力	佐賀大学芸術地域デザイン学部	
後援	佐賀県、佐賀市、佐賀市教育委員会	
展示構成	日本画20点、軸12点、屏風2点、卷子1点、冊子1点 合計36点	
入館者数	2,178人	
広報物	チラシ、ポスター、外看板、HP、FB	
発行物	図録、記録集、チラシ、ポスター	
関連事業	シンポジウム 出演：金子 剛（美術家） 石川 宗晴（岩永京吉美術館 館長） 牛塚 和男（元佐賀大学文化教育学部 教授） 司会／野中 耕介（佐賀県立博物館・美術館 学芸員） 日時：5月19日（日）14：00～ 会場：佐賀大学本庄キャンパス 教養教育2号館 2101   	

講演会

出演：三瀬 夏之介（東北芸術工科大学芸術学部 准教授）
近藤 恵介（佐賀大学芸術地域デザイン学部 講師）
花田 伸一（佐賀大学芸術地域デザイン学部 准教授）

日時：6月2日(日)14：00～

会場：佐賀大学美術館 1階スタジオ



レクチャー「浮世絵版画にみる西洋画法」

講師：花田 伸一（佐賀大学芸術地域デザイン学部 准教授）

日時：5月11日(土)14：00～

会場：佐賀大学美術館 1階スタジオ



ワークショップ「他者の絵を模写する」

講師：近藤 恵介（佐賀大学芸術地域デザイン学部 講師）

日時：5月5日(日)14：00～

会場：佐賀大学美術館 1階スタジオ



「彫刻と絵画をめぐるワークショップ」

講師：富井 大裕（武蔵野美術大学造形学部 准教授）

近藤 恵介（佐賀大学芸術地域デザイン学部 講師）

日時：5月26日(日)14：00～

会場：佐賀大学美術館 1階スタジオ



アンサー・シンポジウム「佐賀大生と日本画専攻」

日時：7月15日(月・祝)14：00～17：00

会場：佐賀大学美術館 1階スタジオ

司会：中村 美和子

書紀：泉 茉優子、今村 奈月

パネリスト：浜口 和之（作家）、中島 由貴（作家）、

池田 佳子（佐賀県内高等学校美術教員）、深町 聡美（作家）、

佐賀大学大学院地域デザイン研究科および同大学芸術地域デザイン学部学生9名

出品リスト

作家名	作品・資料名	制作年・年代	素材	所蔵
草場 佩川	竹園画譜	江戸時代(18-19世紀)	紙本墨画	小城市立歴史資料館(寄託)
柴田 花守	楠公像	不明	絹本着色	佐賀大学附属図書館(市場直次郎コレクション)
柴田 花守	『画学南北弁 上・下』	1882	刊本	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
古川 松根	大黒天図	-	紙本着色	佐賀大学附属図書館(市場直次郎コレクション)
古川 松根	書簡	日付 8月19日	紙本墨書	佐賀大学地域学歴史文化研究センター
中林 梧竹	初日の図 七十四翁梧	1900	絹本着色	小城市立中林梧竹記念館(寄託)
納富 介次郎	牡丹画	1865	紙本着色	小城市歴史資料館
川崎 千虎	祈之図人物画	-	紙本着色	有田町歴史民俗資料館
長井 智覚	佐用姫	-	絹本着色	恵日寺(唐津)
長井 智覚	孔雀図	-	紙本着色	恵日寺(唐津)
池田 幸太郎	皎夜	1968	紙本着色	佐賀県立美術館
野口 謙次郎	春溪図	-	紙本着色	佐賀県立美術館
川浪 養治	キジ	-	紙本着色	佐賀県立美術館
田辺 路平	山桜図	-	絹本着色	洋々閣(唐津)
田辺 路平	領巾振山	-	絹本着色	洋々閣(唐津)
田辺 路平	虹の松原	-	絹本着色	洋々閣(唐津)
立石 春美	鯉	-	絹本着色	佐賀大学美術館
立石 春美	早乙女	1947	絹本着色	佐賀県立美術館
立石 春美	華の幻想	1974	紙本着色	佐賀県立美術館
石本 秀雄	五百羅漢図	-	紙本着色	小城市立歴史資料館
藤田 隆治	五ひき	1961頃	紙本着色	佐賀大学美術館
下川 千秋	小城公園	1974	紙本着色	佐賀県立美術館
下川 千秋	蒼園(下絵)	1972	紙本着色	佐賀県立美術館
下川 千秋	蒼園	1972	紙本着色	佐賀県立美術館
岩永 京吉	裸婦	1963	紙本着色	佐賀大学美術館
岩永 京吉	阿弥陀仏	1965	紙本着色	佐賀県立美術館
牛塚 和男	少年哀歌 I	1977	紙本着色	個人
牛塚 和男	太基	1985	紙本着色	個人
牛塚 和男	粹 I	1994	紙本着色	佐賀市立循誘小学校
石崎 誠和	都市色彩図	2015	紙本着色	個人
石崎 誠和	水照り	2008	紙本着色	個人
石崎 誠和	蓮間図	2008	紙本着色	個人
近藤 恵介	“わ。”と書いて、つぎに “た。”つづけて “し。” はシュッとスナップをき かせる——すべて鉛筆 で——翌朝に “と。”を ペンでゆっくり紙にイン クをしみこませるように ひき、その日の晩に “ そ。”を蛍光ペンでなげ やりにかく、“の。”と “ 状。”は目をつぶる前に ベットで寝そべって指で 宙になぞった、その二年 後に “況。”を画きはじ めたが一年はかかるだ	2019	岩絵具、水干、膠、染 料、墨、金箔、ペン、 鳥の子紙、薄美濃紙、 紙、その他紙、絹、木 材、木製パネル、板、 ガラス板、アクリル 板、石、糊、ねじ、釘、 テープ	個人
近藤 恵介	卓上の絵画(、譚)—— 誰が袖	2019	岩絵具、水干、膠、 墨、金箔、ペン、鳥の 子紙、その他紙、真鍮 板、プラスチックダン ボール、石、虫ピン、 糊、木材、蝶番	個人
近藤 恵介	卓上の絵画(冬)	2018	岩絵具、水干、膠、棒 絵具、墨、染料、金 箔、ペン、薄美濃紙、 鳥の子紙、色画用 紙、印刷物、糊、フォ	個人
近藤 恵介	卓上の絵画(冬)『引込 線2017』書籍)	2018	岩絵具、膠、墨、ペ ン、印刷物、木材、 石、虫ピン、クリップ	個人

展覧会名	夏季特別展「つちからいづるー佐賀大学のやきもの」	
展覧会概要	本学の窯芸教室から現在の有田セラムック分野で教員を務めてきた作家や院生・卒業生の作品を通して窯芸教育の変遷を紹介する展覧会。窯芸教室初代教授の瀧一夫、瀧一夫から指導を受け国内外の後進を育成する宮尾正隆元教授、外国のワークショップにも招聘されるなど国内外で活躍する田中右紀教授、湯之原淳講師、三木悦子講師、甲斐広文講師6名と院生・卒業生7名の作品53点を展示した。	
会期	2019年8月23日(金)~9月23日(月・祝)	
開館日数	28日間	
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ	
主催	佐賀大学美術館	
協力	佐賀大学芸術地域デザイン学部（有田セラムック分野）	
展示構成	計53点	
入館者数	1,382人	
広報物	チラシ、ポスター、外看板、HP、FB	
配布資料	チラシ、ポスター、目録	
展示写真		
		

出品リスト

作家名	作品名	制作年	素材	所蔵
瀧 一夫	伊羅保壺	-	陶器	佐賀大学美術館
瀧 一夫	萌黄釉角瓶	1967	陶器	佐賀大学美術館
瀧 一夫	緑釉壺	-	陶器	佐賀大学美術館
宮尾 正隆	円	-	磁器	佐賀大学
宮尾 正隆	吉野ヶ里「波」	-	磁器	佐賀大学
宮尾 正隆	吉野ヶ里「風」	-	磁器	佐賀大学
田中 右紀	いのししの会議 The diet meeting of the wild boar	2019	磁土	個人
田中 右紀	アジアの雲 Cloud of Asia	2019	磁土	個人
田中 右紀	分子 Elements I	2006-2019	陶土	個人
田中 右紀	分子 Elements II	2006-2019	陶土	個人
田中 右紀	積乱雲 Towering thundercloud I . II	2006	磁土	個人
田中 右紀	Wald	2000	テラコッタ	個人
田中 右紀	分子雲 Molecular cloud	2013	磁土	個人
湯之原 淳	記憶するかたち ~Plasticity~	2015	磁土	個人
湯之原 淳	The fragment of memory	2014	磁土	個人
湯之原 淳	leaf	2006	磁土	個人
甲斐 広文	型打捻輪花皿	2019	磁器	個人
甲斐 広文	型打染付鷹羽輪花皿	2019	磁器	個人
甲斐 広文	型打鯛形皿	2019	磁器	個人
甲斐 広文	型打七角桔梗小鉢	2018	磁器	個人
甲斐 広文	型打桔梗取皿	2018	磁器	個人
甲斐 広文	型打桔梗小皿	2018	磁器	個人
甲斐 広文	糸切蝶形皿	2019	磁器	個人
甲斐 広文	糸切豆形皿	2019	磁器	個人
甲斐 広文	糸切笹形皿	2019	磁器	個人
甲斐 広文	糸切桃形皿	2008	磁器	個人
甲斐 広文	糸切鯛形皿	2019	磁器	個人
甲斐 広文	染付糸切鮎皿	2009	磁器	個人
甲斐 広文	糸切西洋歌留多皿	2015	磁器	個人
甲斐 広文	糸切矢透雲形皿	2010	磁器	個人
甲斐 広文	青磁陽刻柘榴文輪花皿	2012	磁器	個人
甲斐 広文	型打捻八角輪花皿	2019	磁器	個人
甲斐 広文	六角捻り盃	2014	磁器	個人
甲斐 広文	染付水玉珈琲碗皿	2019	磁器	個人
甲斐 広文	しらべ	2016	磁器	個人
三木 悦子	EN	2004	磁器	個人
三木 悦子	fold	2005	磁器	個人
三木 悦子	connection	2006	磁器	個人
三木 悦子	house	2013	磁器	個人
三木 悦子	Ring	2013	磁器	個人
三木 悦子	box	2014	石膏	個人
三木 悦子	酒蔵めぐり用酒盃	2013	磁器	個人
三木 悦子	『梅』制作過程解説資料 原型/使用型/生地、素焼素地	2013	磁器	個人
三木 悦子	松竹梅	2013	磁器	個人
森山 寛二	切り継ぎ 一廻一	2017	陶器	個人
森山 寛二	切り継ぎ 一廻一	2018	陶器	個人
黒木 由美	be here	2019	磁器、釉薬	個人
黒木 由美	be here	2019	釉薬	個人
黒木 由美	be here	2019	釉薬	個人
古賀 崇洋	Helm series A	2019	磁土	個人
古賀 崇洋	Helm series UN	2019	磁土	個人
西川 智成	エスプレッソカップ	2019	陶器	個人
佐藤 明歩	心象標本	2019	磁土	個人
山口 恵美	catena IV	2019	磁土	個人
辻 拓真	環	2019	磁器	個人

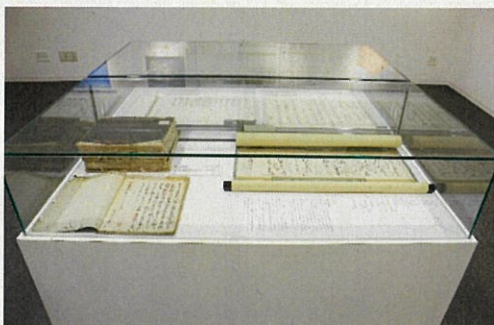
展覧会名	常設展示 第2期	佐賀大学美術館常設展第2期																																																												
展覧会概要	第2期では、平成26年に佐賀商工会館より寄贈された作品と佐賀にゆかりのある作家8名の作品を紹介した。佐賀師範学校時代から後進を育成した石本秀雄と久富邦夫。岡田三郎助や黒田清輝に師事した辻永、佐賀龍谷大学教授で一水会や日展などで活躍した納富進。フランスに留学し、旅先や故郷唐津の風景などを多く描いた内山孝、銀行員時代から積極的に美術家協会展、独立展などに出品した井手誠一、明るい色彩と軽やかな筆致が特徴的な村岡平蔵。彼らの油彩画や日展や文展で活躍した安永良徳のブロンズ像を展示した。	2019 10.1(火) ▶ 2020 3.22(日) 会場 入館料 開館時間 休館日 出品リスト <table><thead><tr><th>作家名</th><th>作品名</th><th>技法・材質</th><th>制作年</th><th>サイズ(cm)</th><th>所蔵</th></tr></thead><tbody><tr><td>オーバールの女</td><td>石本秀雄</td><td>油彩・カンヴァス</td><td>1968年</td><td>143.2×97.8</td><td>佐賀大学美術館</td></tr><tr><td>カンナの花</td><td>石本秀雄</td><td>油彩・カンヴァス</td><td>不詳</td><td>45.4×37.6</td><td>佐賀大学美術館</td></tr><tr><td>黒土</td><td>内山 孝</td><td>油彩・カンヴァス</td><td>昭和36(1961)年</td><td>130.3×162.1</td><td>佐賀大学美術館</td></tr><tr><td>団圓の夕陽</td><td>井手誠一</td><td>油彩・カンヴァス</td><td>1968年</td><td>37.8×43.6</td><td>佐賀大学美術館</td></tr><tr><td>渡鳥</td><td>久富邦夫</td><td>油彩・カンヴァス</td><td>不詳</td><td>45.5×37.9</td><td>佐賀大学美術館</td></tr><tr><td>渡鳥の秋</td><td>辻 永</td><td>油彩・カンヴァス</td><td>不明</td><td>47.3×53.2</td><td>佐賀大学美術館</td></tr><tr><td>ストーリーと秋田</td><td>村岡平蔵</td><td>油彩・カンヴァス</td><td>1962年</td><td>116.5×91.3</td><td>佐賀大学美術館</td></tr><tr><td>富田</td><td>安永良徳</td><td>ブロンズ</td><td>不詳</td><td>77.2×91.1</td><td>佐賀大学美術館</td></tr><tr><td>人物</td><td>安永良徳</td><td>ブロンズ</td><td>不詳</td><td>40.3×40.3×40.3</td><td>佐賀大学美術館</td></tr></tbody></table> SUAM 佐賀大学美術館	作家名	作品名	技法・材質	制作年	サイズ(cm)	所蔵	オーバールの女	石本秀雄	油彩・カンヴァス	1968年	143.2×97.8	佐賀大学美術館	カンナの花	石本秀雄	油彩・カンヴァス	不詳	45.4×37.6	佐賀大学美術館	黒土	内山 孝	油彩・カンヴァス	昭和36(1961)年	130.3×162.1	佐賀大学美術館	団圓の夕陽	井手誠一	油彩・カンヴァス	1968年	37.8×43.6	佐賀大学美術館	渡鳥	久富邦夫	油彩・カンヴァス	不詳	45.5×37.9	佐賀大学美術館	渡鳥の秋	辻 永	油彩・カンヴァス	不明	47.3×53.2	佐賀大学美術館	ストーリーと秋田	村岡平蔵	油彩・カンヴァス	1962年	116.5×91.3	佐賀大学美術館	富田	安永良徳	ブロンズ	不詳	77.2×91.1	佐賀大学美術館	人物	安永良徳	ブロンズ	不詳	40.3×40.3×40.3	佐賀大学美術館
作家名	作品名	技法・材質	制作年	サイズ(cm)	所蔵																																																									
オーバールの女	石本秀雄	油彩・カンヴァス	1968年	143.2×97.8	佐賀大学美術館																																																									
カンナの花	石本秀雄	油彩・カンヴァス	不詳	45.4×37.6	佐賀大学美術館																																																									
黒土	内山 孝	油彩・カンヴァス	昭和36(1961)年	130.3×162.1	佐賀大学美術館																																																									
団圓の夕陽	井手誠一	油彩・カンヴァス	1968年	37.8×43.6	佐賀大学美術館																																																									
渡鳥	久富邦夫	油彩・カンヴァス	不詳	45.5×37.9	佐賀大学美術館																																																									
渡鳥の秋	辻 永	油彩・カンヴァス	不明	47.3×53.2	佐賀大学美術館																																																									
ストーリーと秋田	村岡平蔵	油彩・カンヴァス	1962年	116.5×91.3	佐賀大学美術館																																																									
富田	安永良徳	ブロンズ	不詳	77.2×91.1	佐賀大学美術館																																																									
人物	安永良徳	ブロンズ	不詳	40.3×40.3×40.3	佐賀大学美術館																																																									
会期	2019年10月1日(火)～2020年3月7日(日)																																																													
開館日数	120日間																																																													
会場	特別展示室																																																													
主催	佐賀大学美術館																																																													
展示構成	西洋画8点、彫刻1点 計9点																																																													
入館者数	3,673人																																																													
広報物	外看板、HP、FB																																																													
配布資料	目録																																																													
	   																																																													

出品リスト

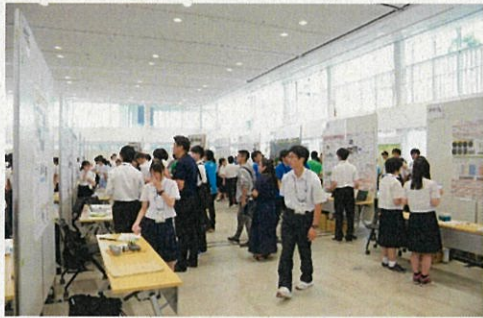
	作家名	作品名	制作年	素材	所蔵
1	石本 秀雄	オーバーの女	昭和35年(1960)	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
2	石本 秀雄	カンナの花	不明	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
3	内山 孝	黒土	昭和36年(1961)	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
4	井手 誠一	銀杏並木秋景	昭和33年(1958)	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
5	久富 邦夫	麦秋	不明	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
6	辻 永	須磨初秋	不明	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
7	村岡 平蔵	ストーブと灰皿	昭和27年(1952)	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
8	納富 進	雲仙	不明	油彩、カンヴァス	佐賀大学美術館
9	安永 良徳	人物	不明	ブロンズ	佐賀大学美術館

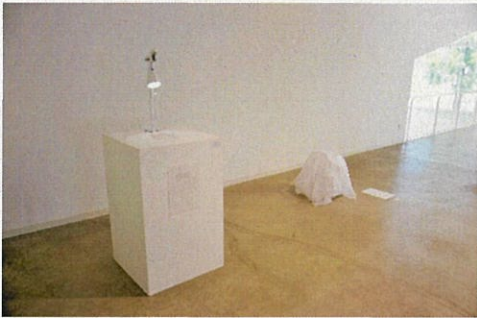
(3) 企画申請事業展示記録

展覧会名	ドローリング展Ⅱ	
展覧会概要	DRAWLINGとはDRAW(描く)とLINE(線)を混ぜ合わせた造語。佐賀県立美術館で開催される「ホキ美術館展」に連動して企画された。本展では小木曾誠氏の新作25点のほか、佐賀在住コレクターによるコレクション、本学出身の若手作家の写実画など全77点が展示され、初日と最終日には出品者15名によるギャラリートークも開催された。	
《会期》	2019年4月3日(水)～4月14日(日)	
《日数》	11日間	
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ	
《主催》	佐賀大学芸術地域デザイン学部	
展示写真		

展覧会名	佐賀大学地域学歴史文化研究センター・小城市教育員会共催展プレイバック企画「鍋島元茂―父を支え、小城を領す―」	
展覧会概要	小城藩が立藩して400年目の年にあたる平成29年に開催された展覧会のプレイバック展。佐賀大学附属図書館所蔵『小城鍋島文庫』の元茂関係資料や島原の乱にかかる書状など、初公開の鍋島直茂（佐賀藩の開祖、元茂祖父）の書状などのほか、企画展で使用したパネルにて、小城藩立藩までの推移や、元茂の生涯を紹介した。	
会期	2019年7月5日(金)～7月15日(月・祝)	
開館日数	10日間	
会場	小展示室	
主催	佐賀大学地域学歴史文化研究センター	
展示写真		

展覧会名	発掘された佐賀2019 -佐賀県の発掘調査成果速報展-	
展覧会概要	2018年度の発掘調査により発見された出土品が初めて一般公開されたほか、過年度の発掘調査の整理・分析等の中で明らかになった新たな成果についての紹介がおこなわれた。また会期中には、調査成果の報告会「佐賀県の発掘調査成果報告2019」が実施され、調査成果の報告、熊本県震災派遣に伴う文化財保護の取組発表などがおこなわれた。	
《会期》	2019年7月10日(水)～7月15日(月・祝)	
《日数》	6日間	
《会場》	ギャラリー1	
《主催》	佐賀県文化課文化財保護室、佐賀大学(地域学歴史文化研究センター、全学教育機構)	
展示写真		

展覧会名	第43回全国高等学校総合文化祭 2019さが総文	
展覧会概要	第43回全国高等学校総合文化祭が佐賀県内各所で開催された。演劇部門や美術部門などの様々な部門がある中で、佐賀大学は自然科学部門の会場となり、当館は特にポスター発表の開会式の会場およびパネル発表の会場として使用された。初日には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がお成りになり発表をご覧になられた。	
会期	2019年7月27日(土)～7月28日(日)	
開館日数	2日間	
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ	
主催・協力・後援	第43回全国高等学校総合文化祭	
展示写真		

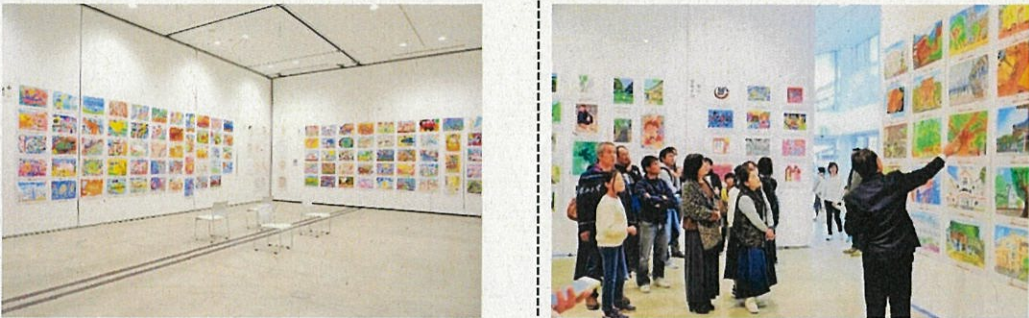
展覧会名	芸術表現基礎・地域デザイン基礎成果発表展	
展覧会概要	本学の芸術地域デザイン学部 of 1年生が授業で取り組んだ制作や活動の成果を発表する展覧会。「絵画」「ミクストメディア」「工芸」「デザイン」「マネジメント」「フィールドワーク」の6つのテーマで制作された約400点の個性豊かな作品が並んだ。会期中にはコンテンポラリーダンスパフォーマンスや自作絵本の朗読会といったイベントも開催された。	
会期	2019年7月31日(水)～8月8日(木)	
開館日数	8日間	
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、歴史展示スペース	
主催・協力・後援	佐賀大学芸術地域デザイン学部	
展示写真		

展覧会名	第4回 S-YOU-GA展	
展覧会概要	佐賀大学芸術地域デザイン学部西洋画専攻と熊本県の崇城大学芸術学部洋画コースによる合同企画展。両大学の教員、卒業生、在校生、合計66名の作品が一堂に会する展覧会となった。会期中には本学の小木曽誠准教授による写実絵画ワークショップ「水彩で描く佐賀」も開催され、佐賀県内の多くの中学生や高校生が参加した。	
《会期》	2019年9月28日(土)～10月14日(月・祝)	
《日数》	15日間	
《会場》	小展示室、ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ	
《主催》	佐賀大学芸術地域デザイン学部西洋画専攻、崇城大学芸術学部洋画コース	
展示写真	 	

展覧会名	みんなの大学写真展	
展覧会概要	本学の経済学部、公開講座「みんなの大学」の受講生100人による写真の展覧会。佐賀県の風景や家族の写真など119点を展示した。会期中には第22回佐賀大学祭大学祭が催され、幅広い年代の来館者が訪れ、見学した。	
《会期》	2019年10月17日(木)～10月20日(日)	
《日数》	4日間	
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2	
《主催》	佐賀大学経済学部	
展示写真		

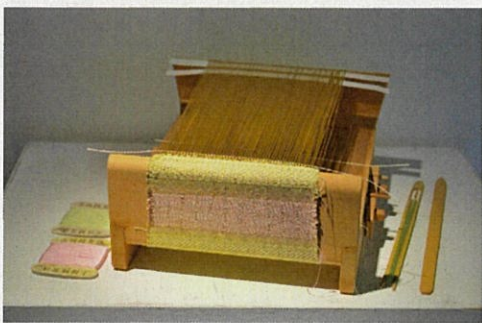
展覧会名	令和元年度 JA共済 小・中学生 第55回書道・第45回交通安全ポスターコンクール	
展覧会概要	JA共済が文化支援事業として毎年実施している全国規模のコンクールの入賞作品展。応募された小・中学生の書作および交通安全ポスターの中から、県内入選・入賞を果たした作品が展示され、会期中は家族連れなどで賑わった。	
《会期》	2019年10月23日(水)～11月4日(月・祝振)	
《日数》	12日間	
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2	
《主催》	佐賀県内JA、JA共済連佐賀	
《後援》	佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県警察本部、佐賀県農業協同組合中央会、NHK佐賀放送局、サガテレビ、NBCラジオ佐賀、エフエム佐賀、佐賀新聞社、日本農業新聞	
展示写真	 	

展覧会名	第10回 璞友会展	
展覧会概要	今年で10回目を迎えた「璞友会」の書道の作品展。佐賀県内で書を学んでいる指導者と生徒、15名が日頃の研鑽の成果を発表した。2019年度は、様々な書体で力強く表現された22点の書道作品を展示した。	
《会期》	2019年11月12日(火)～11月17日(日)	
《日数》	6日間	
《会場》	ギャラリー1	
《主催》	璞友会	
展示写真		

展覧会名	第60回 佐賀県学童美術展	
展覧会概要	佐賀県内の園児および小・中学生が授業で制作した絵画、デザイン、線描を計645点展示した。小・中学生の学校、各地区、そして本部の審査で特選を受賞した作品を見学するため、多くの家族連れなどで賑わった。会期中にギャラリートークも催され、来館者は講師の話に熱心に耳を傾けていた。	
《会期》	2019年12月4日(水)～12月8日(日)	
《日数》	5日間	
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ	
《主催》	佐賀県造形教育研究会	
《後援》	佐賀県教育委員会	
展示写真		

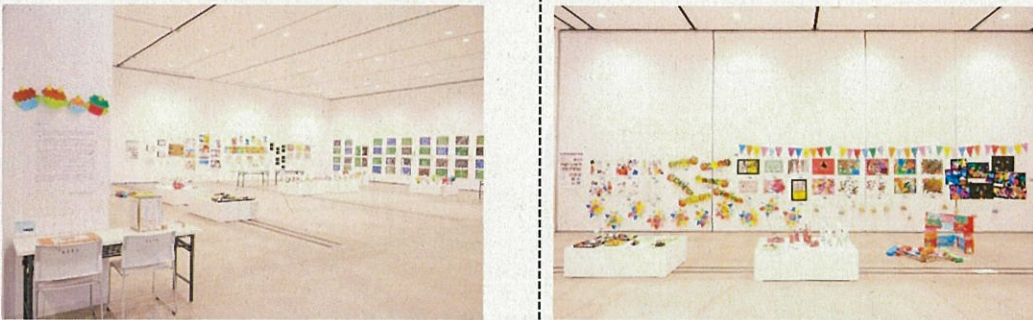
展覧会名	第35回 佐賀県高等学校美術教師作品展 第9回 生徒授業作品展「これが高校美術だ！」	
展覧会概要	佐賀県内の高校で美術を教える教師26名による展覧会。第35回を迎えた今回は、絵画、彫刻、デザインなど34点が展示された。さらに高校で美術を学ぶ意義を一般に伝えるべく、県内高校の授業作品を出展した作品展「これが高校美術だ!」を併催。ポスターやプロダクトデザインなど、今日の高校美術における多彩な取り組みが紹介された。	
《会期》	2019年12月18日(水)～12月22日(日)	
《日数》	5日間	
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ	
《主催》	佐賀県高等学校教育研究会芸術部会美術部会	
展示写真	 	

展覧会名	第44回 佐賀県高等学校書道教師書作展 第44回 佐賀県高校臨書展(生徒優秀作品展示)	
展覧会概要	佐賀県内の高校で書道を担当する教師が授業研究会の他に、年に一度の書作発表の場として開催している展覧会。日頃の修練の成果として32名が47点の書、掛軸、篆刻などを展示した。さらに高校書道部および授業の学習成果として、高校生徒臨書展の優秀作品、合わせて264点を紹介した。	
《会期》	2020年1月29日(金)～2月2日(日)	
《日数》	5日間	
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ	
《主催》	佐賀県高等学校教育研究会書道部門	
《共催》	佐賀県高等学校文化連盟書道専門部	
《後援》	佐賀県書道教育連盟	
展示写真		

展覧会名	テキスタイル・クラフト・コンサヴェーション展	
展覧会概要	芸術地域デザイン学部地域デザインコースキュレーション分野の学生と留学生5名による染織作品を扱った研究成果展。袷袷や絹のドレスなど様々な繊維を取り扱い、それぞれの歴史的文脈を紐解いた。作品およびパネルあわせて26点展示した。	
会期	2020年1月30日(木)～2月4日(火)	
開館日数	5日間	
会場	小展示室、歴史展示スペース	
主催・協力・後援	佐賀大学芸術地域デザイン学部 地域デザインコース キュレーション分野	
展示写真		

展覧会名	佐賀大学芸術地域デザイン学部・大学院地域デザイン研究科 デザインコース 卒業・修了制作展	
展覧会概要	芸術地域デザイン学部および文化教育学部美術・工芸課程、大学院地域デザイン研究科の学部生・大学院生による卒業・修了制作展。西洋画、日本画、視覚伝達デザイン、彫塑、有田セラミック、漆・木工、ミクストメディア、美術史・美術理論、地域コンテンツデザイン、フィールドデザイン、キュレーション分野を学ぶ学生たちが、学生生活の集大成となる作品を展示した。なお本展は2016年に開設された芸術地域デザイン学部にとって初の卒業生による展示となった。	
《会期》	2020年2月15日(土)～2月25日(火)	
《日数》	9日間	
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室、歴史展示スペース	
《主催》	佐賀大学芸術地域デザイン学部、佐賀大学大学院地域デザイン研究科	
展示写真		

展覧会名	佐賀大学学生書作展	
展覧会概要	佐賀大学教育学部芸術地域デザイン学部書道同好会による卒業書作展。佐賀県書作家協会展、佐賀県書道展、県展などに積極的に取り組んできた学生の集大成となる書作と指導教官1名の賛助作品、合わせて15点を展示した。	
《会期》	2020年2月27日(木)～3月1日(日)	
《日数》	4日間	
《会場》	小展示室	
《主催》	佐賀大学教育学部芸術地域デザイン学部書道同好会	
展示写真		

展覧会名	佐賀大学教育学部附属特別支援学校 第4回 児童生徒作品展	
展覧会概要	佐賀大学教育学部附属特別支援学校が、児童生徒の授業作品や学習の様子を紹介し、広く活動を周知してもらおうとともに、展示・鑑賞を通じて児童生徒の情操の学習に取り組むため毎年催している展覧会。 特別支援学校で学ぶ知的障害を持つ児童生徒による図工・美術作品、作業製品、学習活動で制作した作品や教材を展示した。	
《会期》	2020年3月3日(火)～3月8日(日)	
《日数》	6日間	
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2	
《主催》	佐賀大学教育学部附属特別支援学校	
展示写真		

	佐賀大学アカペラサークル「Score!」によるミニライブ	
概要	本学の学生音楽サークル「Score!」が水曜日の昼休みに当館正面入り口前のプロムナードでミニライブを行った。新入生向けのもので、複数のグループが日本のポップミュージックなどをアカペラで披露した。	
会期	2019年4月9日(水)、16日(水) 12:00～12:30	
開館日数	2日間	
会場	プロムナード	
主催・協力・後援	佐賀大学アカペラサークル「Score!」	
展示写真		

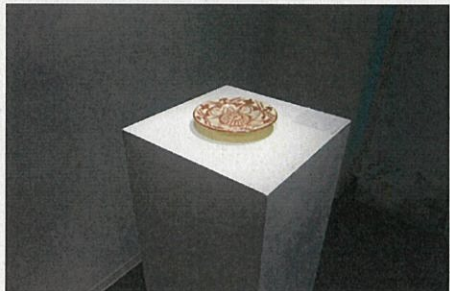
展覧会名	佐賀大学管弦楽団「季節のジェラート」によるミニコンサート	
展覧会概要	本学管弦楽団の有志で構成された「季節のジェラート」が、昼休みにおよそ月に1回、当館自動ドア側のプロムナードで演奏を行った。衣装を替え、スターウォーズ、ハリーポッターのテーマなど聞き覚えのある楽曲を演奏し、の練習成果を披露した。	
〔会期〕	2019年4月12日(金)～2019年12月24日（火） 12:00～13:00	
〔日数〕	9日間	
〔会場〕	プロムナード	
〔主催〕	佐賀大学管弦楽団「季節のジェラート」	
展示写真		

(4) 実習

概要

2016年より当館での博物館実習の学内生の受け入れが始まった。2019年度は学芸員資格取得希望者に対し、収蔵庫見学および展示照明実習館内で行った。

また、本学芸術地域デザイン学部主催のプログラム「アートへの扉」にて、県内の高校生を中心にバックヤードツアーを案内した。

実習名	博物館実習 展示・照明		
内容	博物館実習の一環で、芸術地域デザイン学部石井美恵先生の指導の下、作品の展示および照明の実習を行った。		
期間	2019年5月11日(土) ～ 5月25日(月) 10:00～14:00		
写真			
			

実習名	博物館実習 収蔵庫見学	
内容	博物館実習の一環で収蔵庫見学を行った。参加者は芸術地域デザイン学部の1年生19名で、4グループに分かれて準備室、搬入口、収蔵庫などを見学した。佐賀大学美術館の成り立ちや特色、学芸員の業務、収蔵品について説明した。	
期間	2019年11月8日(金)10:45~11:30	
参加者	19名	
写真		

実習名	「アートへのとびら」バックヤード見学	
内容	本学芸術地域デザイン学部が主催する事業「アートへのとびら」のバックヤード見学を行った。 「アートへのとびら」は県内の高校生を対象にし、アートの持つ多様性やアートの社会への力を学ぶことを目的としたプログラムで、第一回めのプログラムを美術館で行った。常設展とバックヤード見学を行い、展示室と収蔵庫の設備について学んだ。	
期間	2019年11月10日(日)10:45～11:30	
参加者	10名	
写真		

実習名	中学生職業体験	
内容	佐賀大学教育大学附属中学校 2 年生の職業体験を受け入れた。参加者は当館の収蔵庫を含む館内や、企画展の搬入の様子、他の研究・展示施設である地域学歴史文化研究センターなどを見学した。佐賀大学美術館の成り立ちや美術館業務について説明したり、開館・閉館作業や受付業務に携わったりした。	
期間	2019年11月10日(日)10：45～16：00	
参加者	2 名	
写真		

(5) 刊行物

○ 図録『佐賀の近代日本画』

〔概要〕 図録

〔仕様〕 縦 200mm×横 182.0mm 46 頁 4 色刷

〔発行部数〕 1,000 部

〔発行日〕 2019 年 5 月 1 日

○ 記録集『佐賀の近代日本画』

〔概要〕 展覧会記録集

〔仕様〕 縦 200mm×横 182.0mm 94 頁 4 色刷

〔発行部数〕 500 部

〔発行日〕 2020 年 3 月 31 日

○ 『佐賀大学美術館 平成 30 年度年報/紀要』

〔概要〕 年報：館概要/沿革/組織図/2018 年度の活動

紀要：「コレクションの意義と活用—佐賀大学美術館を事例として」

出口智佳子（佐賀大学美術館 学芸員）

〔仕様〕 AB 版 62 頁 4 色刷

〔発行部数〕 500 部

〔発行日〕 2019 年 11 月 30 日

(6) 広報

〔掲載紙・テレビ・ラジオ〕

※平成31・令和元年度は総数で新聞等31件、TV・ラジオ11件が掲載・放送された。

本稿では館主催事業についての報道のみ抜粋して紹介。

〔掲載紙・テレビ〕平成31年度、令和元年度

展覧会名	記事名、番組名	日付・放送日	新聞社・テレビ局・ラジオ局
DRAWLING2	小木曾さん卓抜の描写力 佐賀大「DRAWLING展」	4月5日	佐賀新聞
	佐賀大美術館で草花や自然語り合う	4月17日	佐賀新聞
特別展「佐賀の近代日本画」	「佐賀の近代日本画」展 あすから、佐賀大学美術館	4月30日	佐賀新聞
特別展「佐賀の近代日本画」	郷土の日本画家たどる	5月14日	佐賀新聞
特別展「佐賀の近代日本画」	近代日本画の変遷紹介	5月31日	読売新聞
特別展「佐賀の近代日本画」	芸術ウェブ 伝統と多様化の系譜		長崎新聞
発掘された佐賀2019 -佐賀県の発掘調査成果速報	かちかちプレス	7月11日	サガテレビ
鍋島元茂展	小城藩主鍋島元茂の功績たどる	7月12日	佐賀新聞
発掘された佐賀2019 -佐賀県の発掘調査成果速報	鍋島焼陶片など出土品106点「発掘された佐賀2019」佐賀大美術館で15日まで	7月12日	佐賀新聞
発掘された佐賀2019 -佐賀県の発掘調査成果速報	不明	7月	エフエム佐賀
発掘された佐賀2019 -佐賀県の発掘調査成果速報	ニュース	7月13日	サガテレビ
芸術表現基礎・地域デザイン基礎 成果発表展	「自由」テーマ、ユニークな作品	8月2日	佐賀新聞
つちからいづる	展覧会	8月19日	佐賀新聞
つちからいづる	きょうの催し	8月23日	佐賀新聞
つちからいづる	まちかどカレンダー	9月2日	佐賀新聞
つちからいづる	佐賀大学美術館で「つちからいづる」展 窯業教育の潮流たどる	9月3日	佐賀新聞
第4回S-YOU-GA展	佐賀大学で西洋画を教える男前		サガテレビ
つちからいづる	佐賀大美術館で13人の陶磁器展	9月13日	読売新聞
つちからいづる	芸術新時代(9)陶芸 古賀崇洋さん	9月20日	佐賀新聞
第4回S-YOU-GA展	ニュース	9月28日	サガテレビ
常設展 第2期	ひるま情報便	10月1日	NHK
第4回S-YOU-GA展	佐賀大・崇城大生合同洋画展 大学超え感性競演	10月8日	佐賀新聞
第4回S-YOU-GA展	展覧会	10月8日	佐賀新聞
第4回S-YOU-GA展	佐賀のニュース	10月9日	NHK
JA書道・ポスターコンクール	不明	10月19日	日本農業新聞
JA書道・ポスターコンクール	みんなの掲示板	10月24日	佐賀新聞
JA書道・ポスターコンクール	まちの話題	10月27日	佐賀新聞
第60回佐賀県学童美術展	想像豊かな生き物など645点 県学童美術展	12月7日	佐賀新聞
第35回高校美術教師&生徒作品展	イベント欄	12月16日	佐賀新聞
第35回高校美術教師&生徒作品展	地域の話題 絵画やデザインなど高校美術教師の36作品	12月20日	佐賀新聞
第35回高校美術教師&生徒作品展	不明	12月	エフエム佐賀
発生の場／Ignition Field	アートの見方に新たな視点 佐賀大で展覧会「発生の場」	1月10日	佐賀新聞
常設展 第二期	郷土ゆかりの画家、一堂に 佐賀大美術館で常設展	1月21日	佐賀新聞
佐賀県高等学校書道教師書作展	ニュース	1月30日	サガテレビ
佐賀県高等学校書道教師書作展	まちの話題 日頃の研さん成果披露	1月31日	佐賀新聞
佐賀県高等学校書道教師書作展	不明	1月31日	エフエム佐賀
発生の場／Ignition Field	芸術ウェブ「行動の意味問いかける」	2月2日	長崎新聞
佐賀大学芸術地域デザイン学部・研究科 卒業・修了制作	かちかちプレス テレビ宣伝隊	2月13日	サガテレビ
佐賀大学芸術地域デザイン学部・研究科 卒業・修了制作	芸術学ぶ学生、集大成の70点 佐賀大美術館で卒業・修了制作展	2月16日	西日本新聞
佐賀大学芸術地域デザイン学部・研究科 卒業・修了制作	卒業生の意欲作77点 佐賀大学芸術地域デザイン学部	2月22日	佐賀新聞
佐賀大学芸術地域デザイン学部・研究科 卒業・修了制作	個性光る「卒業制作展」 佐賀大4会場で77点	2月22日	毎日新聞
令和2年度常設展 第1期	展覧会	3月20日	佐賀新聞

(7) 見学団体・入館者数

〔見学団体一覧〕

※事前連絡もしくは申告にて把握できたもののみ。参加者数に引率者含む。

[見学団体一覧]平成31年、令和元年度

社：社会人 シ：シニア 学：大学・短大・専門学校生 高：高校生 中：中学生 小：小学生 未：未就学児

展覧会名	団体名	日付	時間	人数	引率	備考
市設展示 第1期「ローソク」展	佐賀大学「西洋画Ⅰ」受講者	4月9日	15:02	学	18	2 ※視察の場合は「視察」と入
市設展示 第1期「ローソク」展	佐賀大学「芸術と社会Ⅰ」受講者	4月10日	11:00	学	42	1 小木曾先生授業
常設展示 第1期	佐賀女子短期大学付属 ふたばこども園	4月16日	14:38	未	33	2
常設展示 第1期	社会福祉法人 花木庭会 鹿島療育園	4月23日	10:00	社	10	1
常設展示 第1期	佐賀大学新採用職員研修	4月25日	11:30	社	25	2
佐賀の近代日本画展	唐松地区美術部	5月2日	14:00	高	24	6
佐賀の近代日本画展	福岡県立糸島高等学校	6月12日	13:00	高	80	3
佐賀の近代日本画展	佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校	6月13日	12:15	高	15	2
佐賀の近代日本画展	上海市香山中学校 美術専攻	6月14日	13:30	高	20	4
成果発表展・常設展示 第1期	筑紫女学園高等学校	7月31日	12:00	高	56	2
成果発表展・常設展示 第1期	福岡県立香椎高等学校	8月1日	10:10	高	40	2
市設展示 第1期	福岡県立早良高等学校PTA	9月3日	10:00	社	10	1
市設展示 第1期	熊本県立芦北高等学校、芦北町役場	9月11日	11:20	高、社	8	5
市設展示 第1期	佐賀県立武雄青陵中学校	9月12日	12:00	中	120	7
市設展示 第1期	佐賀県立伊万里高等学校PTA	9月20日	11:20	社	31	1
S-YOU-GA展4・常設展示 第2期	熊本県立第一高等学校好文会PTA	10月3日	12:30	社	41	0
S-YOU-GA展4・常設展示 第2期	佐賀大学芸術地域デザイン学部 1年生	10月3日	14:28	学	16	1
S-YOU-GA展4・常設展示 第2期	大分県立中津北高等学校	10月3日	14:30	社	36	5
S-YOU-GA展4・常設展示 第2期	佐賀県立唐津西高等学校	10月9日	15:15	社	25	2
S-YOU-GA展4・常設展示 第2期	佐賀県立致遠館高等学校	10月10日	10:00	社	30	2
みんなの大学写真展	福岡県立武蔵台高等学校	10月17日	17:15	高	36	2
常設展示 第2期	福岡県立玄洋高等学校	10月24日	13:30	高	47	3
JA共済 書道・ポスターコンクール	アートのとびら	11月10日	10:45	高	8	2
常設展示 第2期	第8回 佐賀大学ホームカミングデー	11月16日	12:30	社	25	5
常設展示 第2期	熊本県立御船高等学校	11月19日	11:38	高	25	3
常設展示 第2期	佐賀県立唐津東中学校	11月20日	14:26	中	120	6
常設展示 第2期	福岡県立宗像高等学校PTA	11月22日	14:40	社	30	4
常設展示 第2期	福岡県立三池工業高等学校PTA	11月28日	14:50	社	35	6
佐賀県学童美術展・常設展示 第2期	佐賀大学教育学部附属小学校2年生	12月5日	11:24	小	70	2
佐賀県学童美術展・常設展示 第2期	私立龍谷中学校	12月6日	10:26	中	46	2
常設展示 第2期	私立龍谷高等学校	12月12日	10:40	高	70	2
高校美術教師&生徒作品展・常設展示 第2期	佐賀大学附属特別支援学校中部部	12月19日	10:30	中	6	2
発生の場/Ignition Field・常設展示 第2期	佐賀市立大和中学校	1月11日	14:30	中	16	2
発生の場/Ignition Field・常設展示 第2期	佐賀大学「博物館展示論」受講者	1月26日	14:30	学	22	1
佐賀県高等学校書道教師書作展・常設展示 第2期	佐賀県立佐賀商業高校	1月29日	11:35	高	80	2
佐賀県高等学校書道教師書作展・常設展示 第2期	佐賀県立佐賀商業高校	1月30日	14:01	高	40	1
佐賀県高等学校書道教師書作展・常設展示 第2期	佐賀県立佐賀商業高校	1月31日	11:30	高	40	1
第64回佐賀大学 芸術地域デザイン学部卒業制作展	佐賀女子高等学校	2月20日	10:00	高	23	1
第26回佐賀大学大学院 地域デザイン研究科修士制作展	佐賀女子高等学校	2月20日	11:22	高	14	1
第64回佐賀大学 芸術地域デザイン学部卒業制作展	白石町立六角小学校	2月20日	13:45	小	20	5
第26回佐賀大学大学院 地域デザイン研究科修士制作展	佐賀大学附属特別支援学校中部部	2月27日	11:30	中	6	3
佐賀大学学生書作展						

〔入館者一覧〕

※数値に重複あり

展覧会	入場者数	会期	日数	主催	展示会場
常設展示 第1期	2,275	4月13日-9月16日 (中断期間あり)	79	佐賀大学美術館	特別展示室 ※観覧者実数
第2回「DRAWING展（ドローリング展）」	1,760	4月3日-4月14日	11	佐賀大学芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
佐賀の近代日本画	4,357	5月1日-6月23日	47	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、特別展示室
佐賀大学・小城市交流事業特別展プレイバック企画展 鍋島元茂―父を支え 小城を領す―	949	7月5日-7月15日	9	佐賀大学地域学歴史文化研究センター	小展示室
発掘された佐賀2019―佐賀県発掘調査成果展―	843	7月10日-7月15日	7	佐賀県教育委員会	ギャラリー1
第43回全国高等学校総合文化祭	4,494	7月27日-7月28日	2	第43回全国高等学校総合文化祭佐賀県実行委員会事務局	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
芸術表現基礎 地域デザイン基礎 成果発表展	2,805	7月31日-8月8日	7	佐賀大学芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
「つちからいづる ―佐賀大学のやきもの―	1,382	8月22日-9月23日	27	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第4回S-YOU-GA展	2,117	9月28日-10月14日	15	佐賀大学西洋画専攻、崇城大学芸術学部洋画コース	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
常設展示 第2期	3,673	10月1日-3月8日 (コロナ対策のため中止3/10～)	127	佐賀大学美術館	特別展示室
佐賀大学公開講座「みんなの大学写真展」	581	10月18日-10月21日	4	佐賀大学経済学部	ギャラリー1、ギャラリー2
令和元年度 JA共済 小・中学生 第55回 書道・第45回 交通安全ポスターコンクール	1,436	10月24日-11月4日	11	農業協同組合/ 全国共済農業協同組合連合会佐賀県本部	ギャラリー1、ギャラリー2
環友会展	364	11月12日-11月17日	6	環友会	ギャラリー1
第60回 佐賀県学童美術展	2,864	12月4日-12月8日	5	佐賀県造形教育研究会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第35回 佐賀県高等学校美術教師作品展	638	12月18日-12月22日	5	佐賀県高等学校教育研究会芸術部会美術部会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
発生の場／Ignition Field	1,328	1月11日-1月26日	12	佐賀大学芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
第44回 佐賀県高等学校書道教師書作品展	1,105	1月29日-2月2日	5	佐賀県高等学校教育研究会書道部門	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
テキスタイル・コンソーテーション展	987	1月30日-2月4日	5	佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース キュレーション分野	小展示室
第63回佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程卒業制作展・第25回佐賀大学大学院教育学研究科修士制作展	2,346	2月15日-2月25日	10	佐賀大学文化教育学部/ 佐賀大学大学院地域デザイン研究科	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
佐賀大学学生書作品展	214	2月27日-3月1日	4	佐賀大学文化教育学部学校課程教科教育選修国語(書写)教育分野	小展示室
佐賀大学教育学部附属特別支援学校 第5回 児童生徒作品展	329	3月3日-3月8日	6	佐賀大学教育学部附属特別支援学校	ギャラリー1、ギャラリー2
(中止) 佐賀大学大学院 都市工学専攻 理工学部都市専攻科 修士制作・卒業制作展	-	(中止) 3月13日-3月20日	7	佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻/ 佐賀大学理工学部都市工学科	スタジオ

平成31年4月1日～令和2年3月8日

年度別入場者実績

※数値に重複なし

	総入館者数	うち有料入館者数	開館日数
平成25年度	27,167	0	125
平成26年度	40,780	2,652	254
平成27年度	37,965	0	281
平成28年度	38,474	0	291
平成29年度	34,718	0	285
平成30年度	31,883	0	273
平成31・和元年度	30,698	0	268

(8) 新収蔵作品

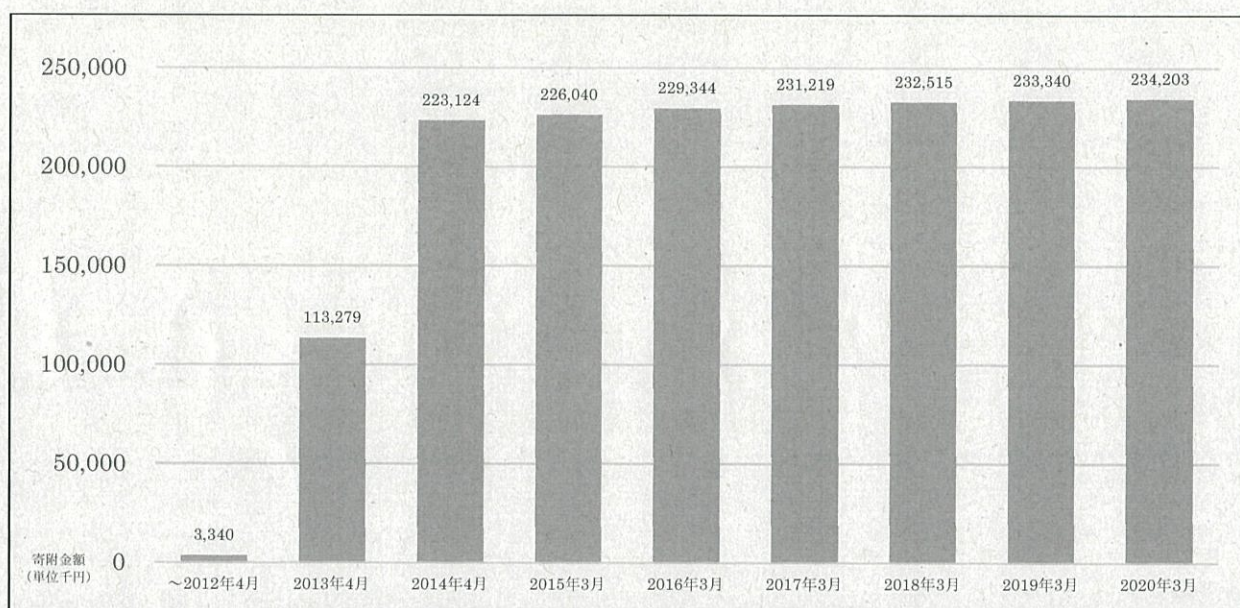
平成31年、令和元年度に佐賀大学の所蔵となった物品の内、佐賀大学美術館が保管もしくは管理する作品。

収蔵年	作家名	作家名,E	作品名	作品名,E	分類	制作年(和暦)	制作年(西暦)	寸法(H×W×D)	素材	出品歴	寄贈者
2019	深川 善治	FUKAGAWA, Zenji	村岡宅美先生像	Portrait of Muraoka Takumi	西洋画	昭和42	1967	88.0×65.0	油彩・カンヴァス	—	村山 卓雄
2019	山口亮一	YAMAGUCHI,Ryoichi	慰問絵巻		史料	昭和17	1942	17.5×246.5	水彩・紙		井崎満州男
2019	山口亮一	YAMAGUCHI,Ryoichi	慰問絵巻		史料	昭和18	1942	17.0×536.0	水彩・紙		井崎満州男
2019	松尾豊治		慰問絵巻		史料	昭和17	1942	18.5×432.0	水彩・紙		井崎満州男
2019	石倉博		慰問絵巻		史料	昭和17	1942	19.0×239.6	水彩・紙		井崎満州男
2019	石崎寛		慰問絵巻		史料	昭和17	1942	19.0×312.0	水彩・紙		井崎満州男
2019	竹下義行		慰問絵巻		史料	昭和17	1942	19.2×883.0	水彩・紙		井崎満州男
2019	田村進		慰問絵巻		史料	昭和17	1942	19.5×441.0	水彩・紙		井崎満州男

(9) 寄附状況

[美術館設置募金の経緯]

2011年6月	美術館設置募金WG設置
2012年4月	美術館設置事業募金開始
2013年6月	寄附者芳名帳を公開
	美術館規則の制定に伴い、美術館設置募金WGを解散
9月	美術館に高額寄附者銘板を設置
10月	美術館開館後も美術館設置事業募金を継続
2020年3月	募金総額 234,203 円 (2020年3月31日現在)



Ⅱ 自己点検・評価

平成31・令和元年度までの美術館運営の特徴について

当美術館は平成25年度10月に新制佐賀大学(旧佐賀大学と佐賀医科大学統合による)10周年を記念して開館した。国内で初の国立総合大学に附属する美術館であり、様々な展示事業を通じて大学の情報や教育・研究の成果を発信するとともに、地域のコミュニティセンターとして市民の方からも気軽に大学に足を運んでもらうきっかけとなることを目指している。

この目的のために大学内の施設ながら常時一般公開し、また、市民団体にも活動の場を提供しながら年間を通して開館している。オープンから平成31・令和元年度末までの6年半に149本の事業が行われ、約24万2千人の入館者があった。来館者の層は学生や教職員など大学関係者にとどまらず、市民の一般観覧、近隣小中高校からの団体見学など幅広い。所在地の人口に対する入館者の割合でみると他の大学博物館・美術館では高いところでも3%台(平成27年度本学アンケート調査)だが、当館は前年度より下がったものの約15%と利用率が非常に高くなっている。この数値は「開かれた大学」を象徴する施設としての存在意義を示すと同時に、芸術活動が日常にとけ込んでいる佐賀の文化風土に由来する当館の大きな特長である。

このような市民を含めた利用率の高さや、「特美」に由来する美術・工芸教育の伝統と質、芸術と他領域を結びつける総合大学ならではの学際的な試み、佐賀の文化・芸術の紹介等を、卒業生を含む周囲の関係者との緊密な協力関係のもとに実施できることは当館の強みとなっている。

以下、開館7年目を迎えた平成31・令和元年度の主な活動について報告し、項を改めて今後の課題について検討したい。

1. 平成31・令和元年度の活動の概略

平成31・令和元年度は、佐賀大学美術館が開館してから7周年を迎えた年であった。主催特別展として、佐賀の近代の日本画を紹介する「佐賀の近代日本画」、本学の民芸教室から現在の有田セラミック分野で教員を務めてきた作家や院生・卒業生の作品を通して窯芸教育の変遷を紹介した「つちからいづるー佐賀大学のやきもの」を開催した。また、本学美術館は2013年の開館以来佐賀大学の美術教員はじめ佐賀にゆかりのある作家達の芸術作品を収集してきたが、当館のコレクションを恒常的に学生はじめ地域の方々へ一般公開し、佐賀や佐賀大学における美術の様相を紹介すべく2期にわたり常設展を開催した。1期では、平成30年度に新たに当館に収蔵された、コンピュータグラフィックをいち早く研究の対象とした佐口七朗や本学芸術地域デザイン学部の源流にあたる特別教科教員養成課程(美術・工芸)設置に大きく貢献した石本秀雄の油彩画を中心とした作品を紹介した。2期では、平成26年に佐賀商工会館より寄贈された佐賀にゆかりのある、久富邦夫、岡田三郎助や黒田清輝に師事した辻永、明るい色彩と軽やかな筆致が特徴的な村岡平蔵ほか、8名の油彩画やブロンズ像等を紹介した。

展示やイベント以外では、前年度から開始した旧教員など関係者の作品収集、資料の保存管理、博物館実習生の受け入れ、県内外からの見学や視察及びメディアへの対応、寄附金の収受などを行った。

以上の取組により、平成31・令和元年度は年間で30,698人の入館者を迎えることがで

きた。昨年度より数値は下げたが、依然として他の大学附属博物館・美術館と比較して多数の来館者数を維持している。これは、休館日設定を月曜のみとしていることと、学外を含む企画申請事業を多く開催していることによる。開館からの総入館者数は年度末時点で241,685人となった。

企画申請事業を主催する学外の団体に対しての使用料は、平成31・令和元年度は7件、799千円となった。昨年度と比して収入額は165千円ほど増加、光熱水料相当額の振替額は138千円であった。その結果、総額は937千円となり前年度の840千円から97千円の増加となっており、今後も美術館の安定した収入源として期待される。

(1) 美術館主催事業

「大学の紹介・広報・研究成果の発表」「大学の所蔵品の調査・公開」「＜特美＞から現在までの本学の美術・工芸に関連する人と作品」「地域の文化伝統の解題・アーカイブ」「総合大学の美術館としての特色を生かした展示」等に焦点をあてる。

① 「常設展 第1期」では、平成30年度に新たに当館に収蔵された寄贈作品を公開。コンピュータグラフィックをいち早く研究の対象とした佐口七郎の作品や本学の芸術地域デザイン学部の源流にあたる特別教科教員養成課程（美術・工芸）設置に大きく貢献した石本秀雄の油彩画を中心とした作品を紹介した。

② 「佐賀の近代日本画」展では、佐賀の日本画の源流としての江戸末期から明治の近代化、現在までの佐賀における日本画の様相を辿り、佐賀における美術史、表象文化史を紹介した。この他、日本画の教員らとともに講演会やワークショップなど多数の関連イベントを開催した。

③ 「つちからいづるー佐賀大学のやきもの」は、本学の窯芸教室から現在の有田セラミック分野で教員を務めてきた作家や院生・卒業生の作品を通して窯芸教育の変遷を紹介する展覧会。窯芸教室初代教授の瀧一夫、瀧一夫から指導を受け国内外の後進を育成する宮尾正隆元教授、外国のワークショップにも招聘されるなど国内外で活躍する田中右紀教授、湯之原淳講師、三木悦子講師、甲斐広文講師6名と院生・卒業生7名の作品53点を展示した。

④ 「常設展 第2期」では、平成26年に佐賀商工会館より寄贈された作品と佐賀にゆかりのある作家8名の作品を紹介した。佐賀師範学校時代から後進を育成した石本秀雄と久富邦夫。岡田三郎助や黒田清輝に師事した辻永、佐賀龍谷大学教授で一水会や日展などで活躍した納富進。フランスに留学し、旅先や故郷唐津の風景などを多く描いた内山孝、銀行員時代から積極的に美術家協会展、独立展などに出品した井手誠一、明るい色彩と軽やかな筆致が特徴的な村岡平蔵。彼らの油彩画や日展や文展で活躍した安永良徳のブロンズ像を展示した。

(2) 企画申請事業

① 学内利用に関しては、本学の教職員全員にメールを配信し、教育研究の成果発表や授業の一環としての展示室利用について企画を受付けることを教職員にも公平に周知している。

平成31・令和元年度における学部・学生による作品の展示としては、芸術地域デザイン学部の小木曾誠氏の新作25点などを展示した「ドローリング展」、同学部1年生による「芸術表現基礎・地域デザイン基礎成果発表展」、同学部西洋画家専攻と崇城大学洋画コースによる合同企画展「第4回 S-YOU-GA 展」、同学部デザインコースキュレーション分野の学生と留学生5名による染色作品を扱った研究成果展「テキスタイル・クラフト・コンサベーション展」、芸術地域デザイン

学部・大学院地域デザイン研究科デザインコースの学生による「卒業・修了制作展」、文化教育学部学校教育課程教科教育撰修国語(書写)教育分野の学生による「佐賀大学学生書作展」が開催された。

また、地域学歴史文化研究センター・小城市教育委員会共催展として「鍋島元茂一父を支え、小城を領すー」、が開催された。

- ② 学外からの企画申請は、美術館ホームページ及びフェイスブックで周知した。主な学外者の事業としては、佐賀県教育委員会による「発掘された佐賀 2019ー佐賀県の発掘調査成果速報展」、全国高等学校総合文化祭佐賀県実行委員会事務局による「第 43 回全国高等学校総合文化祭」展や前年度以前からの継続事業としては璞友会展, J A主催の小・中学生ポスター・書道コンクール展, 学童美術展, 高等学校美術教師・生徒作品展, 高校書道教師作品展・高校臨書展があり, 初等教育から中等教育, そして市民活動まで, 地域の文化活動に発表の場所として定着しつつあることを示しているといえる。特に学童美術展は, 5 日間の会期で 2,864 人もの来館者があり, 昨年度に引き続き最も館内を賑わせた展覧会となった。

(3) 実習・研修事業

平成 28 年 4 月の芸術地域デザイン学部開設に伴い, 地域デザインコースが設けられ, 平成 31・令和元年度は学芸員資格取得希望者に対し, 収蔵庫見学および展示照明実習を行った。

(4) 刊行物の発行

平成 31・令和元年度は, 美術館主催事業「佐賀の近代日本画」展において図録および展覧会記録集を発刊したほか, 平成 31・令和元年度の事業活動をまとめた「平成 31・令和元年度佐賀大学美術館年報/紀要」を発行した。

(5) 掲載紙・テレビ取材等

当館で開催される事業の広報については, 当館ホームページやフェイスブックなどで逐次情報を提供することで費用のかからない広報宣伝と事業の報告に努めている。平成 31・令和元年度にメディアでの掲載・放映は, 新聞等 31 件, テレビ・ラジオ 11 件取り上げられた。

また例年通り, 見学団体・視察等を随時受け入れた。大学見学のための高校生や保護者の団体見学が多いが, 授業の一部として美術館見学を組み込むケースも増えてきている。解説・案内等の依頼に対しては, 現行の職員体制で可能な限り応じた。

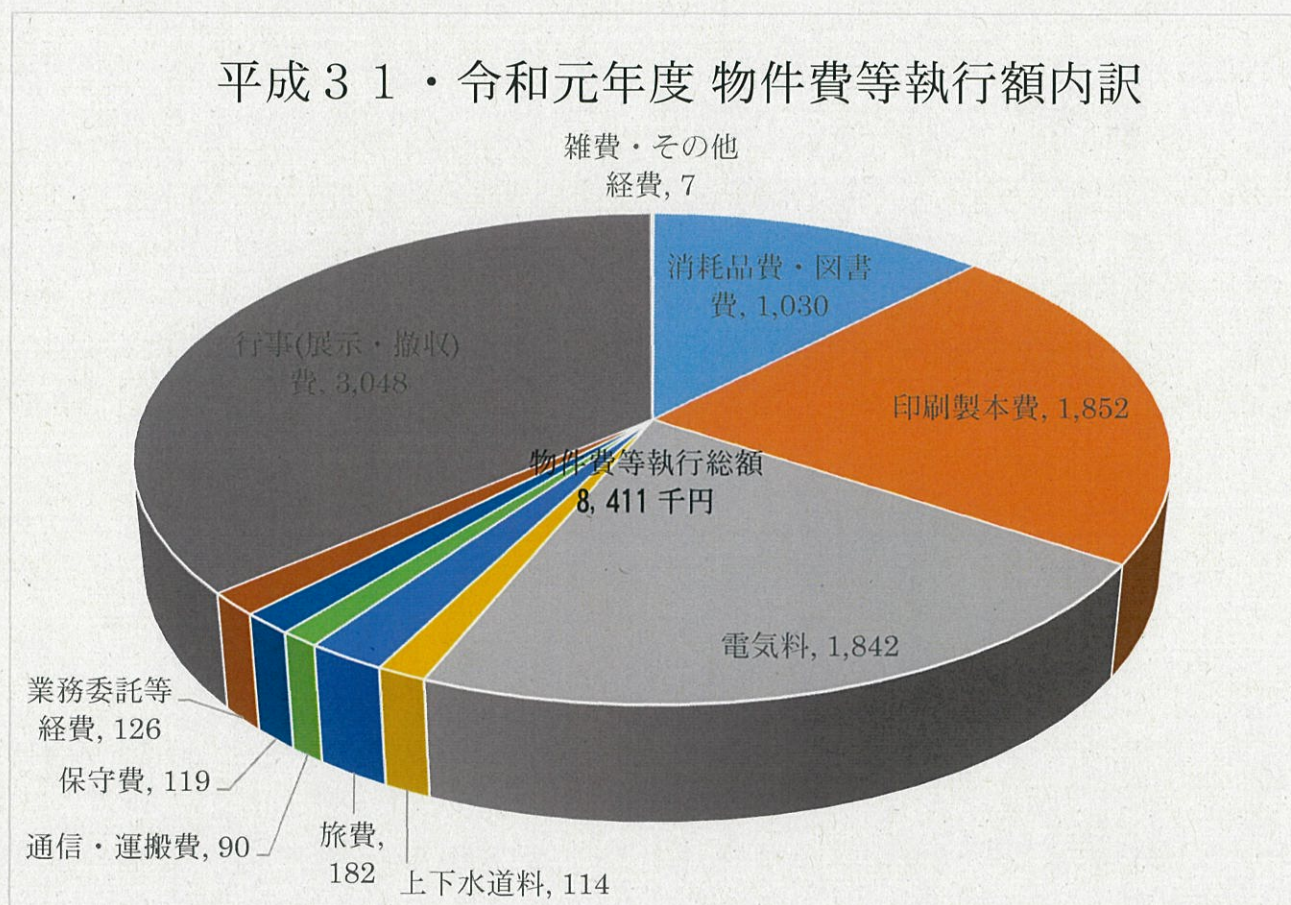
(6) 資料収集・保存

平成 26 年度より寄贈作品の受け入れを開始し, 今年度は寄贈者の申し出により, 作品調査を行い収集した。深川善治の西洋画 1 点のほか, 計 7 点の慰問絵巻史料の寄贈を受けた。

(7) 運営費の執行状況

平成 31・令和元年度に美術館運営のために執行した経費の額は, 非常勤職員(学生等アルバイト等を含む。)人件費等 8,594 千円, 物件費等 8,411 千円(内訳

は以下のとおり），計 17,004 千円であった。



2. 今後の課題等

大学美術館としての理念に基づく展示企画，作品収集・保存の状況，館運営などのバランスの中で年間スケジュールを構成してきた。開館から 6 年が過ぎ，大学及び学生，そして地域社会に資するような活動について少しずつ積み重ねられている実感がある。一方で，今後も継続的に美術館を運営するためには，常に課題の所在を念頭に置きつつ多方面と問題を共有し，助言・協力を仰ぎつつ，実現できるところから順次取り組みを進めていく必要がある。

(1) 美術館の運営費等

開館以来，美術館の運営費の継続的な確保は最大の課題となっている。寄附募集は継続しているが，寄附件数・金額とも減少しており，大幅な改善は見込めず，法人からの予算措置により運営している。

このような状況の下，安定した運営費の確保に資するため，平成 26 年度以降，施設使用者に対して光熱水費の実費を，さらに平成 27 年度からは学外者については展示室使用料を徴収している。平成 31・令和元年度におけるこれらの収入は 937 千円となり，平成 30 年度の年間約 840 千円から 97 千円円増加しており，ここ 4 年間は安定した収入となっている。（表 1）

また，平成 28 年度以降，主催展事業費確保のため，独立行政法人日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金助成金の地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）に要望書を提出し助成金を獲得している。（表 2）

自己収入策の検討は継続した課題であるが，特に寄附金の獲得増加策について

は、平成 29 年 3 月に法人としての方針が決定され、法人全体で取り組んでいるところである。

今後も引き続き大学美術館として、地域や社会の理解を深める事業を行い、大学美術館の活動に理解を得るよう努めていきたい。

(表 1) 美術館貸付料収入等の推移 (平成 26 年度～平成 31・令和 2 年度) 単位：円

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31・令和元年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
現金等収入			13	349,252	10	401,800	9	564,000	12	634,000	7	799,000
学内予算振替	8	515,601	8	137,385	10	256,999	10	172,119	13	206,171	8	137,963
計	8	515,601	21	486,637	20	658,799	19	736,119	25	840,171	15	936,963
前年度差引増減(△)額		-		△ 28,964		172,162		77,320		104,052		96,792

(表 2) 助成金収入等の推移 (平成 28 年度～平成 30 年度) 単位：円

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31・令和元年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
芸術文化振興基金助成金	1	1,353,000	1	1,130,000	1	858,000	1	720,000

(2) 美術館活動

平成 29 年 10 月からは正規事務職員 1 人、非常勤職員 (学芸員) 3 人、再雇用職員 1 人という体制で活動しており、課題としている美術館の役割である調査研究を進める力が不足していることは解消できていない。

現時点で可能な対応策として、事務職員と学芸員の業務分担の見直しを行い、学芸員がより学芸業務に注力できる体制への移行を進めているところである。今後も限られた人員の中で効果的に美術館としての活動が行えるよう検討を進めたい。

(3) 施設とセキュリティの課題

近年の異常気象もあり日々の温室温湿度管理については、細やかな対応が必要となる。可能な限りその変化の確認を行い、設定温度の調節に気を配り、良好な状態を保ち続けるよう取り組んだ。今後も可能な限り、温室湿度の把握に努め、良好な状態が維持できるよう取り組んでいく必要がある。

(4) 魅力ある主催事業開催と企画申請事業の充実

佐賀大学美術館は、地域における人口比での利用率は非常に高くこれまでの活動やその方針は是とするに十分であるものの、一方で来館者数および寄付金の獲得については低減傾向にあることも事実である。これまで以上に来館者に足を運んでもらえるような主催事業の開発と学内及び地域との連携による企画申請事業の充実に取り組んでいく必要がある。